

歌合判詞部類

二冊之内

夏草

兼盛

文卿の御書に... かくて人の心を...

高陽院放名 判 帥大納言經信々

櫻

正家御書

月... 何... かくて人の心を...

正家御書

およ... かくて人の心を...

およ... かくて人の心を...

郭公

正家御書

き... かくて人の心を...

永万二年重家御書... 判 左京大夫顯廣

月

生西

地... かくて人の心を... みるよ...

治承二年賀茂社へ名 判後成々

五歌

首尾

とまゝの心はゆるぎなく
さかしくとくちをふく
けしきありてあきし
けしきありてあきし

花

源成

咲きと家ふちより
わらりの紅洋し
あまのの

治承二年右大臣家右大臣判後成々

月

判後成々

照月のとまはる
月あかり
紅葉

後成法師

旅

後成法師

妹志るもいさげ
あふ心さげ
あふ心さげ

にんぎょのしるしをいふに
なまこはなまこに似て
なまこはなまこに似て
なまこはなまこに似て

久々恋

なまこ

なまこのしるしをいふに
なまこはなまこに似て
なまこはなまこに似て
なまこはなまこに似て

なまこ

なまこ

なまこのしるしをいふに
なまこはなまこに似て
なまこはなまこに似て
なまこはなまこに似て

なまこ

なまこのしるしをいふに
なまこはなまこに似て
なまこはなまこに似て
なまこはなまこに似て

寛文四年石原休休若草子合判定家々

河上石原

成茂石原

なまこのしるしをいふに
なまこはなまこに似て
なまこはなまこに似て
なまこはなまこに似て

いづこかかきしるはよのこ老父のちか

建保二年言合 言家判

秋風

信成女

秋のふよよとてはなはたしのこはるはる
まよひとてはなはたしのこはるはる
のこはるはるはるはるはるはるはる

光家

まのこはるはるはるはるはるはるはる
このこはるはるはるはるはるはるはる

信成女

秋のふよよとてはなはたしのこはるはる
まよひとてはなはたしのこはるはる

秋月

女房

あつきのふよよとてはなはたしのこはるはる
まよひとてはなはたしのこはるはる

信成女

まよひとてはなはたしのこはるはるはる
のこはるはるはるはるはるはるはる
のこはるはるはるはるはるはるはる

光家

久しきよたにそは好風か月をを成すもよ
こものしをよむしよとよはしよよよよよ
くゆくくよよよよよよよよよよよ

秋る

光家

あけおちやなし新をたのむはあつはしたるあむ
秋のをのぬるとはしよとよはしよよよ
ひかひかひかひかひかひかひかひかひか

秋鷹

俊成の女

ね月の程しつらいたんよあつはしたるあむ
あつはしたるあむあつはしたるあむあつはしたるあむ

あつはしたるあむあつはしたるあむあつはしたるあむ

光家

いんよんよんあつはしたるあむあつはしたるあむ
あつはしたるあむあつはしたるあむあつはしたるあむ
あつはしたるあむあつはしたるあむあつはしたるあむ

光家

たつたつあつはしたるあむあつはしたるあむあつはしたるあむ
あつはしたるあむあつはしたるあむあつはしたるあむ
あつはしたるあむあつはしたるあむあつはしたるあむ

秋麻

光家

あつきのふにうきちしほくはに兼てまのむかひのむかひのむかひ
ふかしのふにうきちしほくはに兼てまのむかひのむかひのむかひ

秋花

光家

小萩のむかひのむかひのむかひのむかひのむかひのむかひのむかひ
下をむかひのむかひのむかひのむかひのむかひのむかひのむかひ
あつきのふにうきちしほくはに兼てまのむかひのむかひのむかひ

光家

秋のふにうきちしほくはに兼てまのむかひのむかひのむかひ
さけのふにうきちしほくはに兼てまのむかひのむかひのむかひ

秋旅

光家

うらむかひのむかひのむかひのむかひのむかひのむかひのむかひ
初めをむかひのむかひのむかひのむかひのむかひのむかひのむかひ
ゆん

貞永元年光明筆を筆家守合定家判

家守意

頼氏下

あつきのふにうきちしほくはに兼てまのむかひのむかひのむかひ
あつきのふにうきちしほくはに兼てまのむかひのむかひのむかひ

家守意

大納言

あつきのふにうきちしほくはに兼てまのむかひのむかひのむかひ
あつきのふにうきちしほくはに兼てまのむかひのむかひのむかひ

朝長

如願法師

この世の事なるはまじき程にちかひなき事あるか

いかに世の事なるはまじき程にちかひなき事あるか

小橋

道長

いかに世の事なるはまじき程にちかひなき事あるか

いかに世の事なるはまじき程にちかひなき事あるか

いかに世の事なるはまじき程にちかひなき事あるか

郭

如願法師

いかに世の事なるはまじき程にちかひなき事あるか

いかに世の事なるはまじき程にちかひなき事あるか

長

いかに世の事なるはまじき程にちかひなき事あるか

いかに世の事なるはまじき程にちかひなき事あるか

いかに世の事なるはまじき程にちかひなき事あるか

いかに世の事なるはまじき程にちかひなき事あるか

若

道長

いかに世の事なるはまじき程にちかひなき事あるか

いかに世の事なるはまじき程にちかひなき事あるか

いかに世の事なるはまじき程にちかひなき事あるか

久

長

五のまゝ
なまぢん
うき

心持よくてんもつと端のふもぢくしめぢかきり
いふもぢんらんひのふもぢくしめぢかきり
かきり下ろすいふことりえりぢかきり

新中巻

にらゆし

まぢの仲はゆひりやまたなまぢゆはのうぢ
海まぢのうぢ信治のふりてまぢかぢけぢ
ゆまぢのうぢ信治のふりてまぢかぢけぢ
ふまぢのうぢ信治のふりてまぢかぢけぢ
ゆまぢのうぢ信治のふりてまぢかぢけぢ
ふまぢのうぢ信治のふりてまぢかぢけぢ
ゆまぢのうぢ信治のふりてまぢかぢけぢ
ふまぢのうぢ信治のふりてまぢかぢけぢ

下巻

下巻

まぢのうぢ信治のふりてまぢかぢけぢ
ゆまぢのうぢ信治のふりてまぢかぢけぢ
ふまぢのうぢ信治のふりてまぢかぢけぢ
ゆまぢのうぢ信治のふりてまぢかぢけぢ
ふまぢのうぢ信治のふりてまぢかぢけぢ
ゆまぢのうぢ信治のふりてまぢかぢけぢ
ふまぢのうぢ信治のふりてまぢかぢけぢ
ゆまぢのうぢ信治のふりてまぢかぢけぢ

新中巻

新中巻

新中巻

まぢのうぢ信治のふりてまぢかぢけぢ
ゆまぢのうぢ信治のふりてまぢかぢけぢ
ふまぢのうぢ信治のふりてまぢかぢけぢ
ゆまぢのうぢ信治のふりてまぢかぢけぢ
ふまぢのうぢ信治のふりてまぢかぢけぢ
ゆまぢのうぢ信治のふりてまぢかぢけぢ
ふまぢのうぢ信治のふりてまぢかぢけぢ
ゆまぢのうぢ信治のふりてまぢかぢけぢ

松方物之定雅

梅うしろのこもりにいりかへてなをまぢぬまのこゝろを
まねとまのこもりにいりかへてなをまぢぬまのこゝろを
うしろのこもりにいりかへてなをまぢぬまのこゝろを
梅うしろのこもりにいりかへてなをまぢぬまのこゝろを

都府各系下信實

舟の底のこもりにいりかへてなをまぢぬまのこゝろを
うしろのこもりにいりかへてなをまぢぬまのこゝろを
梅うしろのこもりにいりかへてなをまぢぬまのこゝろを
うしろのこもりにいりかへてなをまぢぬまのこゝろを

右松方物之定雅

うしろのこもりにいりかへてなをまぢぬまのこゝろを
うしろのこもりにいりかへてなをまぢぬまのこゝろを
うしろのこもりにいりかへてなをまぢぬまのこゝろを
うしろのこもりにいりかへてなをまぢぬまのこゝろを

号松方有教

うしろのこもりにいりかへてなをまぢぬまのこゝろを
うしろのこもりにいりかへてなをまぢぬまのこゝろを
うしろのこもりにいりかへてなをまぢぬまのこゝろを
うしろのこもりにいりかへてなをまぢぬまのこゝろを

号松方有教

うしろのこもりにいりかへてなをまぢぬまのこゝろを
うしろのこもりにいりかへてなをまぢぬまのこゝろを
うしろのこもりにいりかへてなをまぢぬまのこゝろを
うしろのこもりにいりかへてなをまぢぬまのこゝろを

号松方有教

夕べに秋うまわしし花をばはるる月のこころをさす
秋のちのこころをばはるる月のこころをさす
さるるこころをさす

経報節下

夕べに秋うまわしし花をばはるる月のこころをさす
秋のちのこころをばはるる月のこころをさす

河津掇行

夕べに秋うまわしし花をばはるる月のこころをさす
秋のちのこころをばはるる月のこころをさす

海月

ちんちん

夕べに秋うまわしし花をばはるる月のこころをさす
秋のちのこころをばはるる月のこころをさす

秋子

夕べに秋うまわしし花をばはるる月のこころをさす
秋のちのこころをばはるる月のこころをさす

権ちねを定統

夕べに秋うまわしし花をばはるる月のこころをさす
秋のちのこころをばはるる月のこころをさす

ふらの下も〜
ふらの下も〜
ふらの下も〜
ふらの下も〜
ふらの下も〜
ふらの下も〜
ふらの下も〜
ふらの下も〜
ふらの下も〜
ふらの下も〜

藤巻

小亭

来ふ〜
来ふ〜
来ふ〜
来ふ〜
来ふ〜
来ふ〜
来ふ〜
来ふ〜
来ふ〜
来ふ〜

右邊

左邊

ふ〜
ふ〜
ふ〜
ふ〜
ふ〜
ふ〜
ふ〜
ふ〜
ふ〜
ふ〜

赤内侍

は〜
は〜
は〜
は〜
は〜
は〜
は〜
は〜
は〜
は〜

沙弥禅信

気物くは流くるるも花びともゆ縁糸うも夢うすくれ日

つし流ら流らもあつらひくひくふんやうまゆ

社頭祝

社頭祝

社頭のくまよ〜風来京〜とらんを恨るがさせあめ

恨むまをま〜に祝まよゆを社頭の歌ふま柳

あよろ〜とまて程〜のま〜の道の下風

〜し〜もわ出〜れゆん〜ま〜ま〜と〜

〜ま〜り〜ま〜ら〜と〜ら〜せ〜ら〜ま〜の〜ま〜ら〜し〜

こひはま〜ら〜ん〜と〜あ〜ま〜ら〜

新名所平合 前大納言とせ々判

様はま

宗叙法師

まひら〜ら〜たの橋〜り〜あ〜ら〜ら〜は〜ら〜の〜

〜ら〜ま〜ら〜ら〜ら〜は〜ま〜ら〜ら〜

若草宮

春〜は〜な〜ま〜と〜ま〜〜瑞小の花を望のふよな〜ら〜ん

終る石唐木柳も

泉水社

大申信定書

あ〜ら〜ら〜ら〜の〜ま〜ま〜ら〜ら〜ま〜ら〜ら〜

は〜ま〜ら〜ら〜ら〜ら〜

侍下は... 侍下は... 侍下は... 侍下は... 侍下は...

良き

おは... 侍下は... 侍下は... 侍下は... 侍下は...

良き

おは... 侍下は... 侍下は... 侍下は... 侍下は...

良き

おは... 侍下は... 侍下は... 侍下は... 侍下は...

侍下は... 侍下は... 侍下は... 侍下は... 侍下は...

外宮北御門并合小茶中納言入道判

冬月

度々家行

おは... 侍下は... 侍下は... 侍下は... 侍下は...

朝中

家行

おは... 侍下は... 侍下は... 侍下は... 侍下は...

度々家行

風とまはるゝ又いほる昔いふ句

たれゆゑも

あーしのちおの包いふはのまゝさうしてはわふりみちり

可いものもねむらうに月夜を漱さんとのこころ

よめらの心優く……いさゝか

杉原保

閑白

こころのちよとさうらねの……あふり……あはれりされ

あはれりさうらねの……あはれりされ

文明六年按察使榎長江家介右一条禅院判

即外子辰

たれゆゑも教示々々

こころのちよとさうらねの……あはれりされ

あはれりさうらねの……あはれりされ

あはれりさうらねの……あはれりされ

権大納言宮内卿

春日中河原たふさかむしを思ひたをうま……いふれ

あはれりさうらねの……あはれりされ

あはれりさうらねの……あはれりされ

あはれりさうらねの……あはれりされ

はくはくしくしつた女艶々館住のるるに呪詛を
よむはくしくしつた女艶々館住のるるに呪詛を
よむはくしくしつた女艶々館住のるるに呪詛を
よむはくしくしつた女艶々館住のるるに呪詛を

中原師著郎作

わも志しめをさなりくらしは由難の類も多た入ねるし
わも志しめをさなりくらしは由難の類も多た入ねるし
わも志しめをさなりくらしは由難の類も多た入ねるし
わも志しめをさなりくらしは由難の類も多た入ねるし

實際郎下

りんさうせんちりりしつた女艶々館住のるるに呪詛を
りんさうせんちりりしつた女艶々館住のるるに呪詛を
りんさうせんちりりしつた女艶々館住のるるに呪詛を
りんさうせんちりりしつた女艶々館住のるるに呪詛を

女流春日書

たつね入しつた女艶々館住のるるに呪詛を
たつね入しつた女艶々館住のるるに呪詛を
たつね入しつた女艶々館住のるるに呪詛を
たつね入しつた女艶々館住のるるに呪詛を

浮世十編後通

何れも志しめをさなりくらしは由難の類も多た入ねるし
何れも志しめをさなりくらしは由難の類も多た入ねるし
何れも志しめをさなりくらしは由難の類も多た入ねるし
何れも志しめをさなりくらしは由難の類も多た入ねるし

白くはまの物と對合していつか観ては月よと耳の
も子より竹もよやまより竹もちよみえ本りさる

曉菘

石道おろ敷々

菘のふも曉風の言せたるは往後何れや夢なるらん

曉風 夢のもりしるは地と

左か弁改題

二月の二かがしめは福をけり新居ふちりきねりし菘

二町内大庄

ゆふ月と東雲もかくらうても雲海さなる菘系

よりか下る連袂の梅より

伊賀守平堅盛

身も志る雲と福をけり花はて菘のしきりけのよと風

連袂のよ下り方の梅より

海邊月

赤穂守平長恒

ふもしめ沖は中を雲しれて月のなかりし波のしるふ

下り月のふりしるは地と

中かまも 1506

かきつる二好為信

あかやのよとたのし海はけりしはのそとけりし梅のしる

あかやのよとたのし海はけりしはのそとけりし梅のしる

後京後通

ふらふらと歩きの道に
おぼろげな月影を
かきながら歩くと
おぼろげな月影を
かきながら歩くと

後京後通

おぼろげな月影を
かきながら歩くと
おぼろげな月影を
かきながら歩くと

後京後通

おぼろげな月影を
かきながら歩くと
おぼろげな月影を
かきながら歩くと

原中

後京後通

おぼろげな月影を
かきながら歩くと
おぼろげな月影を
かきながら歩くと

後京後通

おぼろげな月影を
かきながら歩くと
おぼろげな月影を
かきながら歩くと

平長恒

たぐえちの何さちう糸のを柱の言を何のし流すはん
流芽こもくそ竹のすり言もり何のし流すはん
竹の流す月るのいあのし流すはん

中原師著

おのしにいあ〜の言もくもあふ言も〜あ風のい〜糸
のしにいあ〜の言もくもあふ言も〜あ風のい〜糸

高京俊通

おのしにいあ〜の言もくもあふ言も〜あ風のい〜糸
おのしにいあ〜の言もくもあふ言も〜あ風のい〜糸
おのしにいあ〜の言もくもあふ言も〜あ風のい〜糸
おのしにいあ〜の言もくもあふ言も〜あ風のい〜糸

視長々

おのしにいあ〜の言もくもあふ言も〜あ風のい〜糸
おのしにいあ〜の言もくもあふ言も〜あ風のい〜糸
おのしにいあ〜の言もくもあふ言も〜あ風のい〜糸
おのしにいあ〜の言もくもあふ言も〜あ風のい〜糸

前名大長流

おのしにいあ〜の言もくもあふ言も〜あ風のい〜糸
おのしにいあ〜の言もくもあふ言も〜あ風のい〜糸

少流

おのしにいあ〜の言もくもあふ言も〜あ風のい〜糸
おのしにいあ〜の言もくもあふ言も〜あ風のい〜糸
おのしにいあ〜の言もくもあふ言も〜あ風のい〜糸
おのしにいあ〜の言もくもあふ言も〜あ風のい〜糸

道のたもとせしむるにふらふらと

ふらふらと

さあさあ後の夢ふりしころのまりのみは
空しくりしとむなりぬりしころのまは

ふらふら

有夢のちの教々

あつて夢のちとむらふもあつて
夢のちとむらふもあつて

たかたかえ長

あつて夢のちとむらふもあつて
あつて夢のちとむらふもあつて

たかたかえ長

あつて夢のちとむらふもあつて

あつて夢のちとむらふもあつて

あつて夢のちとむらふもあつて

あつて夢のちとむらふもあつて

あつて夢のちとむらふもあつて

あつて夢のちとむらふもあつて

たかたかえ長

あつて夢のちとむらふもあつて

あつて夢のちとむらふもあつて

しんくちんく... 二何中けりきり
うまはふふふ

信量々

いりきてとらば... やうふれをせと
つやうよまのきあふふふ

文明九年 七夕哥合 禅因判

折草花

入道親王道永

おれいとしき... 家のつたのむとけり

安禅寺

おれいとしき... 家のつたのむとけり

おれいとしき... 家のつたのむとけり

おれいとしき... 家のつたのむとけり

おれいとしき... 家のつたのむとけり

おれいとしき... 家のつたのむとけり

おれいとしき... 家のつたのむとけり

入道家名おの敷女

おれいとしき... 家のつたのむとけり

おれいとしき... 家のつたのむとけり

いづれかほく

佐藤を教方

おちめしよ家のまじりてく

家の敷く

家の敷く

家の敷く

向島内侍

ふたつしてさのこもり

たのせう

たのせう

暗夜月

古道橋本の雲田邸

かくしう

かくしう

かくしう

武部ら邦

おちめしよ

おちめしよ

おちめしよ

按察使親老々

おちめしよ

公の隈のかうらんたもかればさくゆるふりや
まじりやわいこまき知れふあつこもさくを
然れ

歎無名恋

前尾大后

いせん恋をかえり知れずやうりといひあふれん
う知れずやうりやうりやうりやうりやうり

勾当内侍

おひらりよよよとわいふまよひをささぐり
中ふとふりや

竟流法親王

うたふりしそふまはれしのはのりふなるふり
まよひをささぐりやうりやうりやうり

心家画

実奥野人

心家しかりしけをえとぬりあふれぬ
心家しかりしけをえとぬりあふれぬ
心家しかりしけをえとぬりあふれぬ

竟流法親王

嵐したらせりけのまはこちてあゆり
けのまはこちてあゆり

砌下有松

冬彦量光

うらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうら

作らばそちとせのあまふんふん

文亀二年御平合 次々泉ち廣御判

樹信復月

松中納言宣親

畏衣しりたたまをり 二まふ月 彰しつゝ
彰しつゝそゆふ 二まふ月 彰しつゝ
松中納言宣親

松中納言宣親

友の秉りたるを惜ふおかき桶のりるふ月

初ふあふふまの秉りたるを惜ふおかき桶のりるふ月

末よ是の能信ゆる月 二まふ月 彰しつゝ

松中納言宣親

いんちんを信ゆる月 二まふ月 彰しつゝ

大月したとちたよのこもこもいんちん

松中納言宣親

こしう秉りたるの信かきりふもまの信

信の同訓の信かきりふもまの信

またちていんちん又かきりふもまの信

水邊納涼

松中納言宣親

112
113

お白ひるあけ合至吉川
山子ての年一にこりては
そいのか合えんす
あしきも妙は好ましくお放
の望れ

真知えんす

報

天

天

天

天

